

かんきょうがくしゅうじゅく

環境楽習塾を開催しました

令和3年度の第5回目の環境楽習塾を開催しました。

11月6日(土)は『森の素材の活用②』をテーマに、火起こしと丸太切りの体験をしました。

講師は、特定非営利活動法人ぎふ木と森の学校の片岡伸輔理事長です。



講座の初めは、火の起こし方について学びました。

人間が暮らすために火は欠かせません。

原始時代は石を叩いたり、木と木を擦ったりして火を起こしていましたが、現代ではマッチやライターなどを使って簡単に火をつけることができるようになりました。

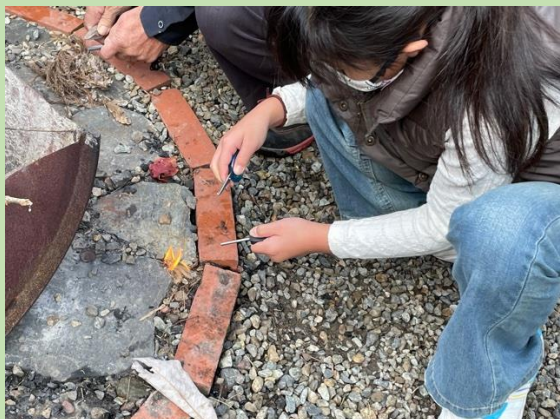
時代が豊かになり、オール電化の普及などにより、私たちは日常生活で火を使わなくても暮らせるようになりました。そのため、かつては日常的に火を目にすることがありましたが、現代では火を使用する機会も少なくなり、火に対する恐怖心があり、マッチを使うことができない子どもが増えているそうです。

火起こし体験をする前に、火起こしの際に燃やす落葉や枯れ枝などを里山散策しながら拾い集めました。道中、葉っぱの大きい朴の木や何種類ものどんぐりなどもあり、袋いっぱい燃やすための材料を集めていました。昔人々は、里山から食料や燃料を得なければ生活できなかったそうで、日常的に里山と深く関わっていたそうです。



講座で体験する火の起こし方は、アウトドアでも使用されるマグネシウムの棒を擦って火を起こすやり方と、マッチで火を起こすやり方の2種類を体験しました。

マグネシウムの棒を金属で擦ると、摩擦で火花が飛び散り、麻やティッシュペーパーのような燃えやすいものに引火して火が起こりました。その後、マッチを使った火起こしを体験しました。初めてマッチを使う子どももいましたが、参加した皆さんはすぐに火を着けることができ、拾い集めた落葉などが徐々に燃え上がりました。



講座の最後に丸太切り体験をしました。直径が短い丸太を、ノコギリを使って切る体験をしましたが、簡単に切ることができず、家族で木が動かないように押さえたり、途中で交代したりして、助け合いながら切っていました。

切った後、切り口の香りを嗅いだり、年輪を数えたりして楽しんでいました。



【参加者の声】

- ・丸太切りは大変だったけど楽しかった。
- ・火起こしが楽しかった。
- ・家ではできないことがいろいろできて、とても楽しかったです。
- ・火をつけることや丸太切りなど、子ども達が初めての体験ができてとてもよかったです。

可児市役所環境課
所在地/〒509-0292 岐阜県可児市広見一丁目1番地
☎0574-62-1111 ☒kankyo@city.kani.lg.jp
※詳細は可児市役所ホームページをご参照ください。
🌐 <https://www.city.kani.lg.jp/>

環境楽習塾は、「清流の国ぎふ森林・環境税」を財源とした森林・環境基金事業です。

